

川南町立中学校統合に関する アンケート調査票

インターネットで回答する方は、右記の二次元コード又は下記の URL からアクセスし、アンケートフォームに直接入力してください。

<URL> [https://logoform.jp/form/s9rU/796169?r\[9:text\]=1](https://logoform.jp/form/s9rU/796169?r[9:text]=1)

二次元コード、URLでの回答は、お一人様一回しかできません。
それぞれの調査票から二次元コード又はURLからアクセスしてください。



問1 あなたの年齢に○を付けてください。

- | | | |
|------------|------------|------------|
| ① 18歳から19歳 | ② 20歳から29歳 | ③ 30歳から39歳 |
| ④ 40歳から49歳 | ⑤ 50歳から59歳 | ⑥ 60歳から69歳 |
| ⑦ 70歳以上 | | |

問2 あなたの性別に○を付けてください。

- | | | |
|------|------|-------|
| ① 男性 | ② 女性 | ③ その他 |
|------|------|-------|

③ その他は、戸籍の区分とは別に御自身の主観で判断してください。

問3 あなたのお住まいの小学校区に○を付けてください。

- | | | |
|----------|----------|---------|
| ① 川南小学校区 | ② 通山小学校区 | ③ 東小学校区 |
| ④ 多賀小学校区 | ⑤ 山本小学校区 | ⑥ わからない |

問4 あなたに、中学生以下のお子様はいらっしゃいますか。○を付けてください。

- | | |
|------|-------|
| ① いる | ② いない |
|------|-------|

裏面へお進みください

① 理解できる ② 理解できない ③ どちらともいえない

③ を回答された方は、当てはまる場所を㉠～㉤の中から回答してください。

- ① 唐瀬原中学校の校舎・体育館等を長寿命化改修して統合する
- ② 国光原中学校の校舎・体育館等を長寿命化改修して統合する
- ③ 統合するため、新しい中学校を整備する
- └─→ 【場所】 ㊦ 唐瀬原中学校の敷地に新規整備
- ㊧ 国光原中学校の敷地に新規整備
- ㊨ その他の場所に新規整備
- ④ 統合しないで、既存2校の中学校を長寿命化改修する
- ⑤ その他()

--

2

資料1 長寿命化改修とは

学校施設は経年により老朽化し、建物に求められる機能は時代とともに変化します。

長寿命化改修は、老朽化した学校施設を将来にわたって長く使い続けるため、単に物理的な不具合を直すのみではなく、建物の機能や性能を現在の学校が求められている水準まで引き上げる改修を言います。

【改修の種類】

	部 分	全 体
原状回復	修 繕 経年劣化した建物の一部を、既存のものとおおむね同じ位置におおむね同じ材料、計上、寸法のものを用いて原状回復を図る改修	大規模修繕 エコ改修や老朽化に伴う補修など、既存の建物を建て替えずに行う大規模な改修
性能向上	改 善 経年劣化した建物の一部を、物理的な不具合を直し耐久性を高めることに加え、機能や性能を求められる水準まで引き上げる改修	長寿命化改修 長寿命化を行うために、物理的な不具合を直し耐久性を高めることに加え、機能や性能を求められる水準まで引き上げる大規模な改修

【長寿命化改修の工事内容】

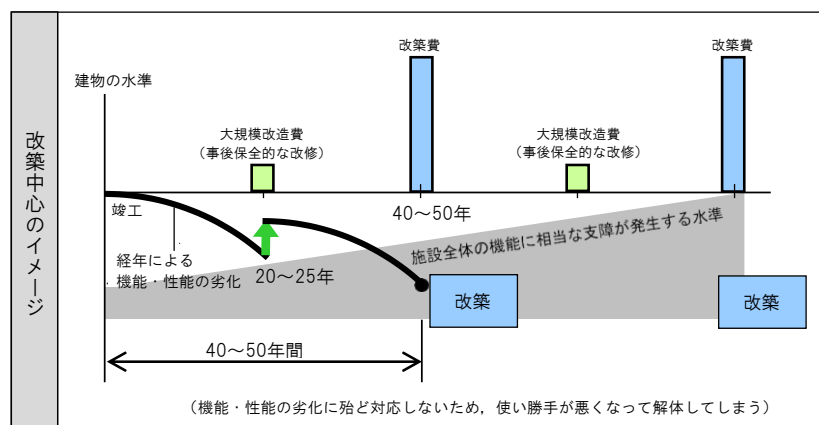
耐久性向上	構造躯体の経年劣化を回復するもの ○ コンクリートの中性化対策 ○ 鉄筋の腐食対策 など
	耐久性に優れた仕上材へ取り替えるもの ○ 劣化に強い塗装・防水材等の使用 など
	維持管理や設備更新の容易性を確保するもの
	水道、電気、ガス管等のライフラインの更新
性能向上	安全・安心な施設環境を確保するもの ○ 耐震対策(非構造部材を含む) ○ 防災機能の強化 ○ 事故防止・防犯対策 など
	教育環境の質的向上を図るもの ○ 多様な学習内容・学習形態への対応 ○ 学校教育や情報化の進展に対応可能な設備 ○ 省エネルギー化・再生可能エネルギーの活用 ○ バリアフリー化 ○ 木材の活用 など
	地域コミュニティの拠点形成を図るもの ○ 防災機能の強化 ○ バリアフリー化 ○ 地域住民の利用を考慮した教室等の配置の変更 など

【目標使用年数と改修周期】

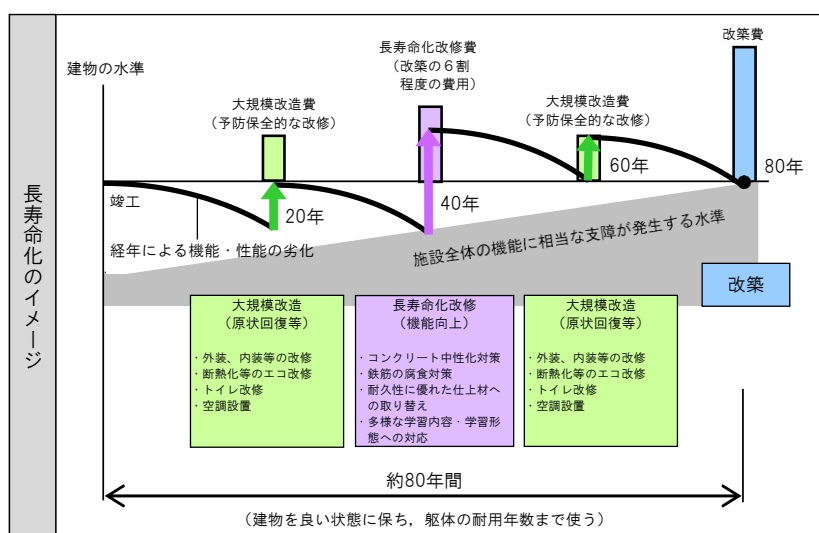
一般的な改築時期はおおむね 50 年とされています。長寿命化改修を行うことでおおむね 80 年まで使用することが可能となります。

改修周期の目安は、大規模改修を築 20 年と築 60 年、長寿命化改修を築 40 年目となります。

新築・改築の周期



長寿命化の周期



出典：学校施設の長寿命化計画策定に係る解説書（平成 29 年 3 月 文部科学省）

【新築・改築と長寿命化改修のメリット・デメリット】

	メリット	デメリット
新築・改築	○ 設計や施工上の制約が少ない ○ 高層化や地下階の拡大が可能 ○ 設計や施工は比較的容易、耐震基準、法規などについては最新のものに対応が容易	○ 廃棄物が大量に発生する ○ 既存建物の解体と廃棄に費用と時間がかかる ○ 工事に時間と費用がかかる
長寿命化改修	○ 改築と比べ、工期の短縮、工事費の縮減ができる ○ 廃棄物が少ない	○ 設計及び施工上の制約が多い ○ 柱・耐力壁などの既存躯体を利用するため間取りの変更に制約が生じる場合がある

【長寿命化改修のイメージ】

■ 長寿命化のモデルケースとなる全面的な改修



(改修前)

★改修内容

- ・給排水、電気、ガス、消防、受変電設備等の更新
- ・外壁塗装に可とう型吹付タイル及び耐候性塗料の採用
- ・可能な範囲での配線配管の露出
- ・内装の木質化
- ・高効率照明の採用

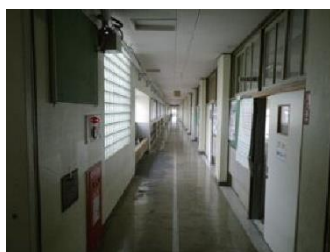
等



(改修後)

■ 老朽化対策の新しい改修方法、安心・安全な施設環境+α

① 学習内容・学習形態の多様化への対応



- 教室配置の見直しによる学習しやすい環境づくり
(廊下の壁を一部撤去し多目的スペースを整備)

② バリアフリー化



- 昇降口にスロープを設置

③ トイレ環境の改善



- 乾式化し衛生的な空間づくり
(便器の洋式化 100%)

④ 防災機能の強化



- 多目的トイレの整備

⑤ 地球環境問題への対応



- 木材利用による豊かな環境づくり
(地域材による内装木質化)

⑥ 構造躯体の耐久性向上



- 構造躯体の部分的な欠損に対する改修
(コンクリートの欠損箇所補修)

資料 2 統合手法比較

項 目		① 唐瀬原中学校に統合	② 国光原中学校に統合	③ 新規整備	④ 2校維持	備 考
統合の考え方		唐瀬原中学校の校舎・体育館を長寿命化改修して統合する。統合後、国光原中学校は用途廃止する。	国光原中学校の校舎・体育館を長寿命化改修して統合する。統合により教室が不足するため、増築が必要となる。統合後、唐瀬原中学校は用途廃止する。	統合するため、新たな中学校を整備する。	統合しないで、既存2校の中学校を長寿命化改修して活用する。	
概算事業費	概算工事費	1,788 百万円 （教室棟）713 百万円 （管理棟）382 百万円 （柔道場）107 百万円 （技術室） 96 百万円 （体育館）490 百万円	1,407 百万円 （教室棟）440 百万円 （管理棟）467 百万円 （柔道場）137 百万円 （体育館） 62 百万円 （増築棟）301 百万円	5,454 百万円 （校舎棟） 3,264 百万円 （体育館） 1,020 百万円 （プール） 803 百万円 （部室棟） 139 百万円 （敷地造成）228 百万円	2,894 百万円 （唐中教室棟）713 百万円 （唐中管理棟）382 百万円 （唐中柔道場）107 百万円 （唐中技術室） 96 百万円 （唐中体育館）490 百万円 （国中教室棟）440 百万円 （国中管理棟）467 百万円 （国中柔道場）137 百万円 （国中体育館） 62 百万円	長寿命化改修、新築、増築等費用
	撤去費用	171 百万円	213 百万円	384 百万円	-	校舎撤去。体育館は残置
	調査設計費	196 百万円	162 百万円	584 百万円	289 百万円	概算工事費の10%を計上
	仮校舎費用	71 百万円	24 百万円	-	360 百万円	工事期間のリース費用
	消費税	223 百万円	178 百万円	642 百万円	354 百万円	
	合 計	2,449 百万円	1,984 百万円	7,064 百万円	3,897 百万円	移転費用、備品費用、光熱水費等別途
事業期間		約 3 年 （設計期間）約 1 年 （工事期間）約 2 年	約 3 年 （設計期間）約 1 年 （工事期間）約 2 年	約 5 年 （設計期間）約 2 年 （工事期間）約 3 年	約 7 年 （設計期間）約 1 年 （工事期間）約 6 年（3 年/校）	
今後の改修・建替え時期		約 20 年後に大規模改修 30～40 年後に建替え	約 20 年後に大規模改修 30～40 年後に建替え	約 20 年後に大規模改修 約 40 年後に長寿命化改修 約 60 年後に大規模改修 約 80 年後に建替え	2校とも 約 20 年後に大規模改修 30～40 年後に建替え	
工事期間の授業対応		工事期間は、生徒の安全性確保のため、国光原中学校で授業を行うことで、工事期間の短縮が可能となる。	工事期間は、生徒の安全性確保のため、唐瀬原中学校で授業を行うことで、工事期間の短縮が可能となる。	工事期間は、各々の中学校で授業を行うことができる。	各々の中学校で授業を行いながら、長寿命化改修を行う必要があるため、生徒の安全性確保のため工事期間が長引く。 体育館工事の際は、他の学校の体育館等使用の検討を要する。	
スクールバスの必要性の有無		工事期間、統合後ともスクールバスが必要	工事期間、統合後ともスクールバスが必要	工事期間はスクールバスが不要 統合後はスクールバスが必要	スクールバスが不要	
総 評	メリット	・工事期間が短く、工事費も比較的安価である。 ・新規整備ほどではないが、恵まれた教育環境で授業が受けられる。	・工事期間が短く、工事費も安価である。 ・新規整備ほどではないが、恵まれた教育環境で授業が受けられる。	・建替え時期は約 80 年後と使用期間は長い。 ・最新の教育環境で授業が受けられる。	・新規整備ほどではないが、恵まれた教育環境で授業が受けられる。	
	デメリット	・工事期間は、国光原中学校で授業を受ける必要がある。 ・長寿命化改修後、約30年で建替え時期を迎える。	・工事期間は、唐瀬原中学校で授業を受ける必要がある。 ・長寿命化改修後、約30年で建替え時期を迎える。	・事業費が最も高額である。	・工事期間が長く、工事費も高額である。 ・維持管理費が2校分必要となる。 ・長寿命化改修後、約30年で建替え時期を迎える。	

資料3 生徒数・学級数の推移

(1)生徒数

2024 年の生徒数は、唐瀬原中学校が 279 人、国光原中学校が 163 人、合計 442 人です。

今後生徒数減少のスピードは加速化し、2027 年には 400 人を、2034 年には 300 人を下回ると推計されています。

(2)学級数

生徒数より普通学級の生徒数を 40 人(中学校設置基準)として学級数を算出すると、2036 年には唐瀬原中学校は 4 学級、国光原中学校は 3 学級にまで減少し、クラス替えができない状況になります。

表 将来の生徒数・学級数

単位：年、人、学級

学校		2024	2025	2026	2027	2028	2029	2030	2031	2032
唐瀬原中学校	生徒数	279	285	277	262	237	237	223	219	195
	普通学級数	7	8	7	7	6	6	6	6	5
国光原中学校	生徒数	163	168	161	133	124	108	118	117	129
	普通学級数	5	5	5	4	4	3	3	3	4
統 合	生徒数	442	453	438	395	361	345	341	336	324
	普通学級数	12	12	11	10	10	9	9	9	8

学校		2033	2034	2035	2036
唐瀬原中学校	生徒数	179	161	148	140
	普通学級数	5	5	4	4
国光原中学校	生徒数	123	112	108	91
	普通学級数	4	3	3	3
統 合	生徒数	302	273	256	231
	普通学級数	8	7	7	6

※ 生徒数は住民基本台帳より推計
普通学級数は1学級40人で算出